

登米市「緊急経済・雇用対策」

臨時職員の雇用を開始 36人に辞令を交付

急激な雇用環境の悪化を受け、市で取り組んでいる「緊急雇用対策」の一環として採用した臨時職員の辞令交付式が2月9日、迫公民館で行われました。

式では、2月5日まで申し込みのあった市内の19歳から59歳までの男性20人、女性16人、合計36人に、布施市長と佐藤教育長から辞令が交付されました。市長は「皆さん一



人一人が市民の生活を支えているという使命感を持って業務に取り組んでほしい。中には不慣れた業務もあるかもしれないが、市民の皆さんが安心して生活できるまちづくりを目指し、わたしたちと一緒に頑張りましょう」と訓示。その後、採用者は配属先の各部署へ移動し、仕事を始めました。

採用された市内の40代の男性は「短い期間ではあるけれど、どんな仕事でも最大限に努力したい」と、話していました。

今回の緊急雇用対策は、企業の業績不振などにより雇止めや解雇で離職を余儀なくされた人を対象にしたもので、採用者は3月末まで各種データの集計や備品整理、各種調査、道路補修補助などの業務に当たります。

【問い合わせ】

産業経済部商工観光課
工業振興係
☎0220(34)2734

市スポーツ & 入賞情報 (敬称略)

第37回みやぎソフトバレーボール登米大会

■開催日 1月25日(日)
■会場 登米総合体育館

【トリム・クリスタルの部】
第2位 球愛会A(登米市)

第18回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

■開催日 2月11日(水)
■会場 伊豆沼・内沼
サンクチュアリセンター

【金賞】
登米市長賞 蛭田敏夫(中田)
栗原市長賞 阿部圭吾(石越)
【銅賞】
読売新聞社賞 梶原宗孝(東和)

第35回宮城中学校春季選抜バレーボール大会 登米市予選

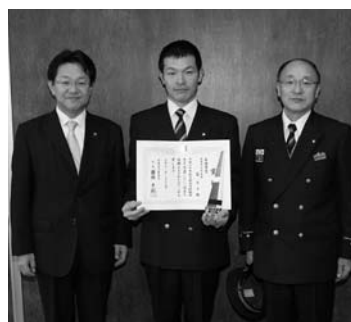
■開催日 1月31日(土)
■会場 中田総合体育館

【女子の部】
第1位 豊里中学校
第2位 登米中学校
第3位 佐沼中学校

平成20年度宮城県消防職員意見発表会

■開催日 1月29日(木)
■会場 仙台市消防局

【最優秀賞】
「心の声」
袋岳人(市消防本部)



東北大会での活躍が期待されます

平成20年度宮城県農業・農村活性化女性グループ表彰

■開催日 2月4日(水)
■会場 仙台国際センター

【優秀賞】
カタクリの里(東和)

第60回作詞・作曲コンクール

■開催日 2月9日(月)
■会場 仙台市常盤木学園

【作詞の部】
特選 三浦正登(浅水小)
【作曲の部】
特選 鈴木美咲(石越小)

地域が協力して文化財を守る

文化財防火デー防災訓練・文化財講座

昭和24年に世界最古の木造建築物である法隆寺金堂壁画(国宝)が火災によって消失したことを教訓に定められた文化財防火デー(1月26日)にちなみ、1月25日、市指定文化財を多く所有する「石越山昌学寺」で防災訓練が実施されました。

訓練には地域住民、市消防団石越支団、市婦人防火クラブ石越支部、昌学寺関係者ら約100人が参加。昌学寺西



参加者による本堂からの重要物搬出訓練

側の金鶏山山林から出火し、本堂へ延焼する恐れが生じた想定して進められました。訓練は、一般電話からの通報訓練や駆け付けた住民による重要物の搬出、消火器の取り扱い指導などを実施。参加者が煙の中を通り抜ける煙道体験や地域住民による消火栓を使った消火訓練、消防団による建物への一斉放水なども実施され、参加した皆さんは各訓練に真剣に取り組んでいました。消火訓練に参加した地区住民は「実際に火災が起こったときには、今日の訓練を参考に少しでも被害を抑えられるようにしたい」と話していました。



消火栓の取り扱いについて説明を受ける参加者



南浦住職による昌学寺の歴史などの講話

農業についての意見を交換

認定農業者連絡協議会「登米市長との新春懇談会」

市長との懇談を通して市の農業経営の健全な発展と地域農業の振興を目的に、認定農業者連絡協議会(高橋幸三会長・迫町)と布施市長との新春意見交換会が1月30日、ホテルニューグランドヴィアで開催されました。



農業に関するさまざまな意見が出されました

交換会には、市内の認定農業者や市の関係者など約60人が参加。高橋会長が「現在、わたしたち農家を取り巻く環境は非常に厳しいものではありますが、相互に協力し登米市の農業を守っていききたい」とあいさつ。その後、布施市長による「元気の登米市の農業」と題した講話が行われ、現在、市の農業を取り巻く環境や学校、病院などの給食による地産地消の推進などについて相互に意見を交換しました。



農業に対する市の政策などを説明をする市長

防災 ミニ情報

⑥ 火災警報機の設置はお早目に

火災が多くなるこの季節、幼い子や一家全員が焼死するなどという住宅火災による痛ましい報道が、連日のように新聞などに掲載されています。全国では1年間に千人を超える焼死者が発生し、その原因の9割は住宅火災となっており、そのうち7割が就寝中の「逃げ遅れ」が原因となっています。住宅様式が開放型から個室型に変わり、音・煙とも気付きにくくなったことが一因と考えられます。このような事故に遭わないためには「早く知り、早く知らせ、早く逃げる」ことです。住宅用火災警報器は火災時に最初に発生する煙を感知して、警報音を発する機器で、電池1個で1年以上火災を見張る「優れた番人」です。大切な家族の命を守るために、早めに取り付けましょう。

